カラマツ、燃やします

バイオマスボイラ燃焼炉の内部

カラマツチップの新たな使いみち

かつて、土木用材として一世を風靡したカラマツ。最近では建築材や合板など様々な用途で出荷されています。そのうち曲がり材等は製紙用のチップに振り向けられていました。ところがこの出荷がままならず、地域の林業に暗い影を落としています。安価な海外からの調達ルートが確立し、国内市場が縮小したからです。

行き場のなくなったカラマツチップをどこへ利用すればよいのでしょうか？カラマツ材を地域のエネルギーとして捉え直すことで、新たな需要の生まれる可能性があります。ある試算では、年間26万リットルの灯油を消費する温泉施設のボイラをチップボイラに置き換えることで1，000立方メートルの原木の需要が生まれます。燃料代も、年間約1，500万円の節約が見込まれました。もちろんCO_2の削減も期待できます。

加えて、カラマツ材にとって有利な話があります。それは含水率の低さです。平均すると40％程度で、概ねスギ材の約半分ほどです。燃料としてみるとき、この特長はとても有利に働きます。

チップボイラの導入には設置場所の確保や初期投資など、克服すべき課題もありますが、逆に、雇用を始め地域の経済への広がりも期待できます。薪や炭の時代を超えて、林業がエネルギーと再び出会い、佐久の新しい産業、新しい顔となって蘇る日が来ることを目指して、地域で取組みを始めます。